

# 子どもアート Day 実行委員会 活動報告

## 【実行委員会発足の社会的背景】

- 住んでいる場所や保護者の経済状態・価値観などから、子どもたちの体験に格差が生じ、中でも特に、文化的な生活や多様な芸術との出会い、体験・創造への参加機会については、残念ながら保護者が対価を支払ってくれる子どもだけが享受できるものとなっている。
- 子どもの権利条約第 31 条「休み、遊び、文化芸術活動に参加する権利」への社会的認識が未だ十分ではなく、「子ども」「文化」をテーマとする事業の重要性が地域で共有されていない。
- 「子ども」や「文化」を主要なテーマとしてまちづくりに携わる組織や個人は地域に多数存在し、それぞれ懸命に努力しているものの、個々の財政基盤は弱く、横のつながりも薄いため、持てる力を十分に周知・発揮できていない。その結果、そうした団体の支援活動が子どもたちや子育て家庭に届きにくい。

## 【実行委員会が目指す地域の姿】

- 子どもの育ちと子育て家庭を地域を挙げて応援していく気運を醸成する。また、本事業によって生まれた多様な連携を、「子ども×文化×地域」を考え協力できるネットワークとして育てていく。
- 住んでいる場所や生活状況の違いが、子どもたちの文化体験格差に影響しない地域を目指す。
- 地域のアーティストや支援団体などの仲間がつながり、子どもを取り巻くそれぞれの活動がつながり合って、地域課題の解決に取り組む体制をつくる。
- 子ども・子育てを応援する他のネットワークとも連携する。

## 【活動の記録】

(2019年4月～2022年12月) 延期を繰り返したため、これまでの動きをまとめて

年度	月	活動内容	会議等
2019年度	4月	企画開始 賛同者を集め始める	
	10月	顔合わせ、それぞれの活動を知る	21日 参加団体顔合わせ
	1月	実行委員会発足 プログラム、スケジュール検討	16日 実行委員会
	3月	チラシ作成、広報開始	5日 参加団体企画会議 26日 実行委員会
2020年度	4月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2022年1月に延期	1日 参加団体企画会議
	3月	再延期の提案について検討	29日 実行委員会
2021年度	4月	再延期を決定、開催時期未定	5日 参加団体企画会議 (オンライン)
	8月	開催日決定 2022年10月23日(日)	
2022年度	4月	再延期はせず、コロナ禍下でも可能な方法での開催を決定	5日 実行委員会 21日 参加団体企画会議 (オンライン)
	5月	・プログラム・エリア・タイムスケジュール等の調整 ・地域版まちづくり総合戦略事業補助金 申請準備	12日 実行委員会 26日 参加団体企画会議 (オンライン)
	6月	・プログラム・エリア・タイムスケジュール、役割分担、使用備品等の調整、予算作成 ・地域版まちづくり総合戦略事業補助金 申請	9日 実行委員会 30日 参加団体企画会議 (オンライン)

7月	・チラシおよびリーフレット案の作成 ・会場装飾等の作成	19日 実行委員会 28日 参加団体企画会議（オンライン）
8月	・各プログラム準備 ・チラシおよびリーフレットの作成、印刷 ・支援・後援依頼	
9月	・各プログラム準備 ・チラシの学校園への配布、広報開始 ・当日配布プログラム・掲示物等の作成	
10月	・各プログラム準備 22日 会場設営 <b>23日 「子どもアート Day」当日</b>	5日 実行委員会 13日 参加団体企画会議
11月	・ふりかえり ・事業報告作成	10日 実行委員会 30日 参加団体ふりかえり会議
12月 ～ 3月	・支援者への報告 ・資金調達計画作成 ・ネットワーク拡大	

## 子どもアート Day2022

事業の目的：地域で活動する多くのアーティストやパフォーマー、学生、子どもと子育てを支援する市民活動団体等と、たくさんの親子が出会う場を創出する。また、多様な連携で本事業を実施することにより、「子どもと文化」を考え将来にわたって協力し合えるネットワークを構築する。

開催日時：2022年10月23日(日)13:00～15:30

開催場所：島根県民会館内 12 会場

活動内容：演奏やワークショップ等 29 種のプログラム実施（チラシ参照）

参加者数：約 160 組(約 450 人)の親子…事前申込 328 人+当日 約 120 人

運営スタッフ：188 名

しまねガムラン 9 人、たのしい楽団 23 人、山陰フィル弦楽アンサンブル 15 人、プラバーフット 3 人、オルガンピクニック 8 人、みんなの asoviva 2 人、親子リズムサークル 15 人、tukuru よしと 1 人、おはなしレストラン 6 人、松江友の会 9 人、ここあん 3 人、NPO 法人もりふれ倶楽部 3 人、NPO 法人おやこ劇場松江センター 13 人、認定 NPO 法人あしづえ 2 人、島根県立大学短期大学部保育学科 45 人、島根大学教育学部生 6 人、NPO 法人松江音楽協会 4 人、松江市子育て政策課 4 人、島根県立美術館 5 人、しまね文化振興財団 2 人、ラボキッチン 4 人、生協しまね 3 人、松江 NPO ネットワーク 3 人、

### ■参加者アンケート結果…回答数 40（回収率 約 25%）

1. 参加したお子さんの満足度(5段階評価)：5(82.5%)、4(15.0%)、3(2.5%)、2(0%)、1(0%)
2. 来年以降も参加したいか(5段階評価)：5(85.0%)、4(12.5%)、3(2.5%)、2(0%)、1(0%)
3. 開催時間について：ちょうどよい(70.0%)、短い(30.0%)、長い(0%)

### 4. 自由記述

- ・会場中どこに行っても、大人達みんなが優しく温かく、子ども達を笑顔で迎えてくださり、ありがたかったです。広い会場でしたが、一体感があって見守ってもらえる安心感がありました！
- ・コロナ禍で色んな規制がある中、子供達が喜ぶイベントを企画、開催して下さってありがとうございました。

- ・ 色々な場所で色々な人達と交流できて、子ども達も大人もとても楽しい1日でした！
- ・ なかなか遊びに出かけられないところでしたが、子ども達が思いっきり楽しめ、笑顔が見れて良かったです。
- ・ 幅広い年齢の子が楽しく遊べるようになっていて、良かったと思います。
- ・ たくさんのイベント、お店があったり、活動を知る機会にもなったと思います。身近なものでおもちゃをつくるアイデアが面白く参考になりました。
- ・ どのプログラムも面白そうで、来年もぜひ参加したいです。予約制だったので、密にならず、時間も決まっていたので、ゆったりとしながらも満足いくまで遊べてよかった。
- ・ いいイベントでした！学生さんがお店をされていて、とても良かったです。手作りで暖かみのある遊び場でとても楽しめました。

## ■ Web 情報発信

- 8月→投稿6回、訪問者360人、ページビュー1376
- 9月→投稿12回、訪問者969人、ページビュー5463
- 10月→投稿8回、訪問者681人、ページビュー3617
- 11月→投稿0回、訪問者259人、ページビュー1697

## ■ まとめ

- 参加者の満足度が大変高く、文化芸術に触れ支援者と出会って対話をする必要があるとされていることが改めてわかった。また、プログラムを提供した側の参加団体にとっても、こうした活動の意義を実感できる機会となった。
- コロナ下でも不安を感じない参加者数と会場の使い方を設定するのが大変難しく、家族一組を平均2.5人と想定して企画したが、実際には平均3人だった。しかし、ちょうどコロナ不安が緩和されてきたタイミングだったため助かった。
- 同時並行して複数のプログラムが進行する企画だが、WEB申込のシステム上、重複するプログラムに申し込みできないようにすることができなかつたため、当初からある程度の不参加・遅刻・早退が予測されたがどうしようもなかった。参加プログラムの見直しを個別に依頼したが、応えてくれる人はほんの一部だった。その一方で、当日が近づくとつれ「楽しみにしていたが急病でキャンセル。残念。」等の丁寧な連絡が多数届き、ニーズを実感した。
- なかなか集まらない中、参加団体が他団体と協力し合って準備や当日の運営を進められるようにするための連絡調整や情報共有を細やかに行った。対面での企画会議が実現したのがようやく10日前で、顔を合わせて協議することによって得られる情報量と安心感は、オンライン会議の比ではないことを実感した。
- 自団体のことだけでなく、運営全体に必要なことを考えて自ら動いてくれるキーパーソンを複数見つけることができた。

## 【今後の事業展開】

2023年11月19日(日)の島根県民会館での開催を決定した。

- 今回の経験を踏まえ、会場全体の使い方や時間配分を見直し、参加団体も増やして、さらに魅力的なプログラムをより多くの親子に提供できる機会としたい。資金については、今回の成果をわかりやすく伝えることにより、寄附や協賛を早い時期から集めていく。運営については、プログラム提供団体のほかにボランティアスタッフを募集する。
- 初開催だった今回は、参加団体が当日の様子をイメージしにくかつたようで連絡調整に苦心したが、来年からは関わる皆がある程度理解して主体的に動ける部分も増え、より団体同士の協力や連携が増すことを想定している。